



# 装い新たに

# 国指定 重要文化財



ちんきん しし ぼたんもん ながふくりん たちこしらえ

## 「沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵」一口



佐野美術館展覧会  
**「名刀百花」**にて  
 修復完了記念公開 R4.1.8 ~ R4.2.13

沼津市民が所有し三島市の佐野美術館が寄託資料として保管している国指定重要文化財（工芸品）「沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵」は、文化庁・静岡県・沼津市の補助金を得て、所有者が株式会社目白漆芸文化財研究所（東京都新宿区）に委託して修復に取り組み、令和元年6月から1年半余りを経て完了しました。修復前は、表面に亀裂が見られたり、金の細工に汚れが見られていましたが、現代の職人の熟練した技術により、数百年前の工芸品の輝きが蘇りました。

この太刀拵は元々は高野山に伝来し、祭礼用に使用されていたとされています。鞘には、黒漆が塗られた面に金の細工を施す技術（「沈金」）が使われていて、獅子や牡丹の花と枝の見事な文様（「獅子牡丹文」）が



獅子の彫刻

描かれています。さらに鞘の鐔から鐙までの両縁が鉛製の金具で覆われています（「長覆輪」）。また、柄の部分は鮫皮で包まれていて、飾目貫に依鋳5つが配されています。太刀拵の制作年代は室町時代頃と思われるますが、特に鞘に沈金を施す技法は特殊なもので、かつこの時代に沈金の技法が用いられていたことは大変珍しいとされています。



牡丹の彫刻

||||| **沈金とは** |||||

漆を塗った面に、刃物で線を刻んで文様を描きます。この線刻の中に生漆を擦り込んで金粉や金箔などを押し込んで付着させる技法のことです。

この太刀拵は昭和29年(1954)に、国の重要文化財に指定されたよ。



柄の装飾



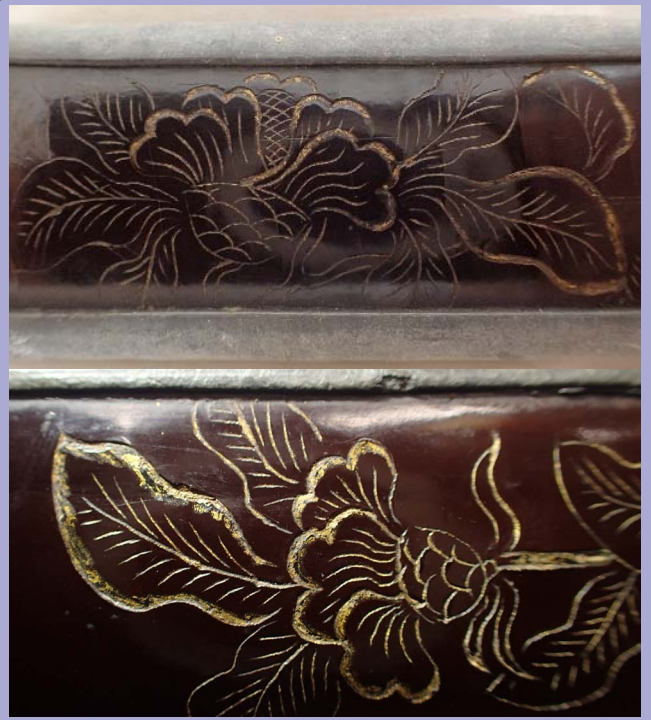
修復作業の様子

漆固め（劣化した漆塗膜の強化作業）

修復前

沈金

修復後



過去の修理で沈金の上に漆下地うるししたじが塗られて汚れになっていたため（写真左上）、これを丁寧に除去しました。また、表面の汚れや細かい傷（写真左下）も丁寧に修復し、金の文様が鮮やかに蘇りました（写真右）。

修復前

覆輪

修復後



覆輪部分の鉛が腐食していて、白い粉がふいていたたり、隆起も認められました（写真左）。鉛の腐食部分を丁寧に取り除き、仕上げに漆を摺り重ねて修復しました（写真右）。

修復前

鞘の表面

修復後



表面に大きな亀裂が生じて浮き上がっていました（写真左）。漆を浸透させながら優しく押さえて接着させ、亀裂も埋める修復を行いました（写真右）。